

1 学力向上検討委員会構成

学力向上検討委員	
	職名・校務等担当名
管理職	校長、教頭
学力向上推進員	教諭(教務課長)
委員	教諭(小学部長、中学部長、高等部長)

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1)基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

(高等部) 生徒の状況		
よさ	卒業後の生活や働く場面で必要な知識・技能・態度を身につけるため、地域の資源や人材を活用しながら、実際の・体験的な学習活動に意欲的に取り組んでいる。	課題 生徒自身が自分の力や課題を適切に把握できておらず、自分の力量に見合った進路選択ができていない場合がある。
具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
卒業後の進路に向けて「やってみたい!」という興味がある授業に取り組む、学習や就業体験で見つけた自己の課題を改善し、「わかった」、「できた」という自己の成長を実感しながら、次の目標に向けて主体的に取り組む力を育てる。。	生徒一人一人の育成をめざして、資質・能力に応じた個別の指導計画を作成し、目標の達成率が80%を超える。	個別の指導計画における目標の達成率が、1年生96.0%、2年生97.8%、3年生97.3%と全学年で目標の80%を超えることができた。 ----- 評価 A
具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
卒業後の進路や身に付けておきたい生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、生徒の興味関心を引き出す授業の工夫と教材研究に取り組み、学習内容項目表や作業評価基準表を活用し、生徒の成長や段階的・系統的な取り組みの充実に努める。 ----- * 中間期の見直し	・教科担当者での指導内容の検討会を積極的に行い、指導目標の明確化や目標に応じた授業構成を考える。 ・個別の指導計画立案時に学習内容項目表や作業基準評価表が活用できているか年に2回確認する。	・教科担当者は学習内容の引き継ぎ、生徒の実態把握をした後、将来の目標を見据えた指導内容の検討等を行った。 ・学習内容項目表については年に1回、作業基準評価表は年に2回確認を実施した。個別の指導計画に活かすことができた。
達成状況を踏まえた改善事項		
個別の指導計画における目標の達成率が3学年ともに80%以上となり成果指標を越えることができた。全体的に達成率の低かった学年については、本人や保護者のニーズを確認しながら、生徒の実態や発達段階に応じて、各教科等の目標や指導内容、指導方法について教員間でしっかりと共有し、組織的・計画的に取り組んでいきたい。また、学習内容項目表や作業基準評価表を積極的に個別の指導計画に活かすことで、本人も教員も生徒の成長や段階が明確に把握できるよう、利用の定着を図っていきたい。		